

日経平均ボラティリティー・インデックス先物指数について

§ 名称

正式名称：日経平均ボラティリティー・インデックス先物指数

略 称：日経平均 VI 先物指数

英文名称：Nikkei 225 VI Futures Index

§ 基本的な考え方

日経平均ボラティリティー・インデックス先物指数は、大阪証券取引所(大証)で取引されている日経平均ボラティリティー・インデックス先物(日経平均 VI 先物)を対象に、期近限月と期先限月のウェートを日々調整することで、仮想的に満期 1 カ月の日経平均 VI 先物を合成し、その合成した先物価格の日々の変動率に連動するよう設計された指数です。

日経平均 VI 先物は、市場参加者が想定する日経平均株価(日経平均)の将来のボラティリティーを表す日経平均ボラティリティー・インデックス(日経平均 VI)を対象にして行なわれる先物取引で、直近の連続する 8 限月が取引されています。

日経平均 VI 先物指数は、このうち期近限月(第 1 限月)と期先限月(第 2 限月)の先物価格を用いて算出します。先物価格を合成するための比率(ウェート)を、期近から期先に日々少しずつ移していくことで、満期が常に 1 カ月先となるような限月のない仮想的な先物を合成します。

§ 指数の計算方法

指数値は以下の算式に従って、終値ベースで日々算出されます。指数の単位はポイントです。算出の起点は日経平均 VI 先物の取引が始まった 2012 年 2 月 27 日で、この日の値を 100,000 ポイントとします。

$$\begin{aligned} \text{指数値(当日)} &= \text{指数値(前日)} \\ &\times \frac{\text{期近ウェート(前日)} \times \text{期近価格(当日)} + \text{期先ウェート(前日)} \times \text{期先価格(当日)}}{\text{期近ウェート(前日)} \times \text{期近価格(前日)} + \text{期先ウェート(前日)} \times \text{期先価格(前日)}} \end{aligned}$$

期近ウェートと期先ウェートは、合計すると常に 1 となります。ロール日(SQ日)の直後は、期近限月の満期がほぼ 1 カ月となりますので、期近ウェートは 1 に近い値、期先ウェートは 0 に近い値となります。

そこから、次のロール日に向けて、期近ウェートは日々少しずつ減少し、期近限月の取引最終日には 0 になります。逆に、期先ウェートは日々少しずつ増加し、期近限月の取引最終日には 1 となります。

§ 指数の特徴

日経平均 VI 先物の価格は、日経平均 VI と同様に、相場の先行きが不透明になると値が上昇する傾向があります。そのため、日経平均 VI 先物指数も、日経平均 VI と同様に日経平均と逆相関の関係になる傾向があります。

また、相場が安定していて、大きな変動がない局面では、日経平均 VI 先物の価格は、期近限月より期先限月の方が高いことが一般的です。本指数の算出上、価格が安い期近限月から価格が高い期先限月に日々ウエートを移していくこととなりますので、こうした局面においては、指数値が逡減していく傾向があります。

図 1：日経平均 VI 先物指数の推移 (単位:左軸=ポイント、右軸=円)

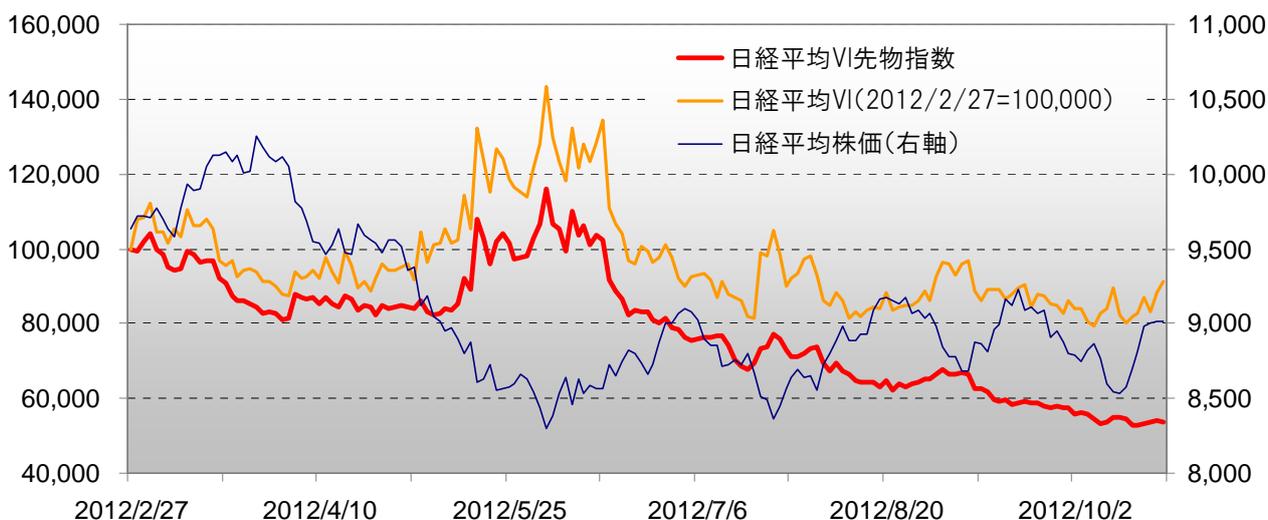
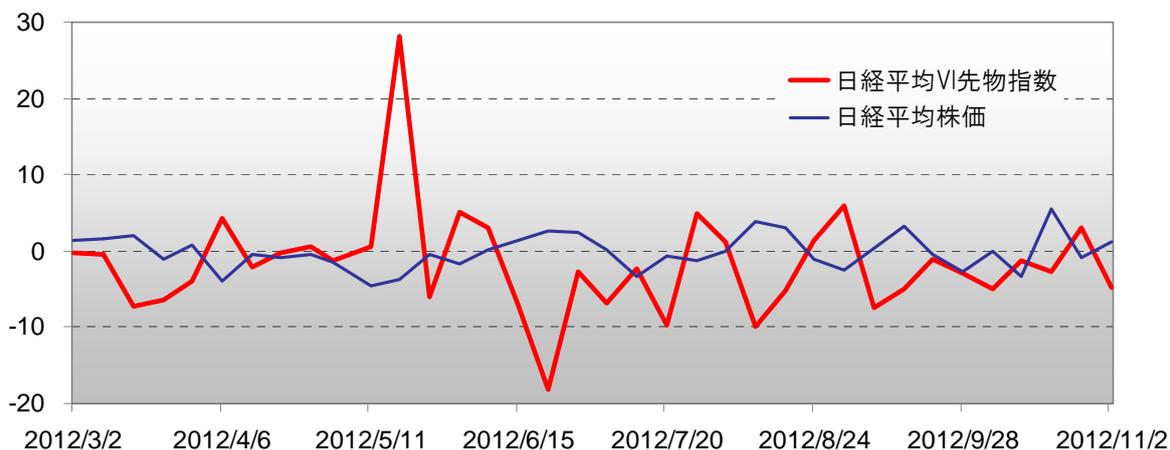


図 2：日経平均 VI 先物指数と日経平均株価の週次騰落率比較 (単位:%)



※より詳しい指数の算出方法などについては、「[日経平均 VI 先物指数算出要領](#)」をご参照ください。

「日経平均ボラティリティー・インデックス先物指数」に関するお問い合わせは
日本経済新聞社 インデックス事業室
電話：03-6256-7341、メール：index@nex.nikkei.co.jp まで